

令和2年度（2020年度）

肥後っ子いきいき読書環境づくり事業

「子どものころを育てるいのちあることば

～絵本や昔話をもたらすもの～」



- 主催 熊本県立図書館
期日 令和3年（2021年）3月1日（月）
13：30～16：00
会場 熊本県立図書館3階大研修室
講師 高野 和佳子 氏
（NPO法人子育て支援ワーカーズペペペらん 代表）
参加者 50人
対象 公共図書館、幼稚園・保育園職員、子育て支援センター職員、
おはなしボランティア・文庫関係者など

前半 講話「子どもたちに届けたい絵本や詩について」

まず、赤ちゃんが生まれてから言葉をかけてもらうことの大切さを、授乳時の様子や脳科学の視点からお話いただきました。生まれた時から言葉をかけてあげることが子どもの幸福の第一歩であり、たくさんの言葉を浴びることが聞く力をつけ、友だちの話を聞けることで社会をつくることができると学びました。選書では、言葉と絵が美しいものを選ぶことや、25年以上（子が親になる期間）読み継がれた古典の良さについてご講演いただきました。

次に、詩の言葉の美しさ、昔話には生きる知恵が詰め込まれていることを教えていただき、さまざまな絵本を紹介していただきました。



後半 講話「読み語りのスキルアップ」

質疑応答

まず絵本の持ち方と見せ方について、次に読み語る時の配慮や場の持ち方について、具体的に教えていただきました。最後に、わらべうたを歌いながらお雛様の面を向けて渡すひなまわしを、参加者も一緒に歌いました。

質疑応答では、写真の凶鑑に興味のある子どもへの本の読み方や、わらべうたに関していすとりゲームなどの子どもの遊びについての質問に答えていただき、子どもの興味と年齢に合わせた選書や保育現場の職員での意識共有を大切にすることを学びました。



参加者の感想（アンケートより一部抜粋）

- ・絵本の選書や読み方、大切さがよくわかり、大変勉強になりました。（保育士）
- ・園に持ち帰り、保育士にはもちろん、保護者にも伝えていきたいです。
（保育士）
- ・やわらかい声で読んでくださったのが心にしみました。
こんなに良い本だったかなと思うくらいで、読み方でも違うと感じました。
（公共図書館職員）
- ・絵本の見せ方がとても良く分かりました。（子育て支援センター職員）
- ・どんな絵本を選んだら良いのか、読み方、立ち（座り）位置、場の持ち方など、改めて知ることができ良かったです。
さっそく絵本を買いに行きたいなと思いました。（幼稚園教諭）
- ・コロナの影響で講座、講習会等全く受けることができずに悶々としていました。久しぶりに受講でき、とても良かったです。
またいろんなことを調べたりして、自分のものにしていきたいです。
高野先生の伝えたいことがとても伝わってきました。（おはなしボランティア）
- ・絵本が子どもたちの成長に大きな影響を与えることがわかり、これからもたくさんの絵本を子どもたちに読んで、たくさんの絵本と出会うことができるようにしていきたいです。（保育士）
- ・絵本の選び方、絵と話の内容で選んでいましたが、「言葉の美しいもの」を選ぶということを学び見方が変わりました。
今日の学びを参考に選ぼうと思います。
明日子ども達の前で本を読むのが楽しみです。（保育士）